

# VCM の臨床効果に影響を及ぼす因子の検討

小倉潤子、中野泰寛、藤本希久加、加藤彰範、小林理栄、石岡亜由美、新井亘、増田裕一  
上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院 薬剤部

## 【目的】

当院では VCM を使用する際、投与前と実測値測定後の二度、薬剤師による血中濃度解析を行っている。有効血中濃度内でも効果が早期に十分得られない症例を経験することから、VCM の臨床効果に影響を及ぼす因子について検討を行った。

## 【方法】

2007 年 4 月～2008 年 4 月の間、VCM が投与された成人患者（透析患者、投与後 CRE： $\pm 0.4$  以上の変動がある例、3 日未満の投与例を除く）計 74 名を対象とした。①体温  $37^{\circ}\text{C}$  以下への低下、②WBC  $9400/\mu\text{L}$  以下への低下、③CRP30%以上の低下、④MRSA 減少もしくは消失の計 4 項目のうち、投与開始 7 日以内に 3 項目以上を満たしたものを著効、7 日目以降に満たしたものを有効、それ以外を無効とした。著効群と有効・無効群に分け、年齢、性別、既往歴、栄養摂取方法（経口・経管、PPN・TPN）、MRSA 検出部位、他菌検出の有無、併用抗菌薬の有無、投与日数、血中濃度、VCM 投与時の体温、各種臨床検査値について単変量解析及び多変量ロジスティック回帰分析を行った。

## 【結果】

単変量解析の結果、著効群 30 名における著効因子として 経口・経管、血液からの MRSA 検出なし、他菌検出なし、WBC 低値、Alb 高値、Plt 高値で有意差 ( $p < 0.05$ ) が確認され、女性、心疾患あり、創部からの MRSA 検出で強い関連性 ( $p < 0.1$ ) が認められた。多変量ロジスティック回帰分析の結果、WBC 低値 ( $p = 0.007$ )、女性 ( $p = 0.038$ ) が有意因子であった。

## 【考察】

消化管を介した栄養摂取の重要性、また WBC 高値を示す重症感染症症例ではより一層 AUC/MIC を考慮した投与設計を行う必要があることが示された。女性が有意因子となった具体的理由は定かではないが、感染防御における免疫機構自体に男女差が存在する可能性が示唆されている今日、患者背景を踏まえた更なる検討が必要である。